

被災者の思い届けたい

釜石での経験をもとに

室蘭・海星学院高の生徒5人



道南バスの車内に掲示するポスターを届けた海星学院の生徒たち

7月11～15日に東日本大震災の被災地・岩手県釜石市を訪問しボランティア活動に取り組んだ室蘭・海星学院高校(堺俊光校長)の生徒5人が、現地で感じた思いを表現したポスターを作製。8月4日に道南バス室蘭東営業所(東町)に届け、車内に掲示した。

釜石市を訪問したのは1、2年生5人で、現地住民の話を聞く傾聴ボランティアに取り組んだ。生徒たちは、現地で撮影した写真を背景に言葉をちりばめそれぞれポ

道南バスの車内に掲示

スターを作製。5種類300枚を同営業所に届け、嶋崎昌行所長に手渡した。同社のバス65台に張り出すという。

2年生の大友琴響さんは「心の問題はまだまだ残っている」と感じ、「新しくできていくまち、取り残された心」とポスターに記した。

田中美季さんは「心に留めておくことがある」と書いた。「6年もたつと記憶が薄れていってしまう。犠牲になった人がたくさんいることを忘れてほしくない」と語った。(粟島暁浩)